肝炎・肝がん撲滅の為の取り組み　（２）

臨床検査技師による入院患者への肝炎ウイルス検査結果説明

◎高橋 一彦[1)]、照井 金伸[1)]、伊藤 雅貴[1)]、藤田 秀文[1)]
大曲厚生医療センター[1)]

【はじめに】近年、国を挙げたウイルス肝炎対策が講じられているが、秋田県農村医学会共同研究班では「秋田県における肝炎・肝がん撲滅のための共同研究」を行い、その一環として、平成30年4月より当院にてHB s抗原またはHCV抗体検査結果（以下、肝炎検査）について、臨床検査技師が報告書配布及び結果説明を実施する取り組みを開始した。今回、開始から1年間の実績を検証し、今後の課題を検討したので報告する。

【方法】①報告書配布及び結果説明の対象は入院扱いの検査依頼とした（救急外来よりの入院含む）。②肝炎検査が実施された患者に対し、専用の検査報告書を作成する。③陰性結果の患者に対して病室に直接出向き、報告書配布と同時に結果説明を行う（3名の技師で1週交替）。⑤陽性の結果は主治医に報告書を委託し、主治医が専門外来への受診も含めた結果説明を行う。⑥報告書配布及び結果説明を実施した記録を検査システム側からコメント入力し、電子カルテ参照可能とした。

【結果】①平成30年4月から31年3月までの1年間における全肝炎検査は8684件で、内入院扱い検査が1606件（19%）、外来扱い検査が3777件（43%）、ﾄﾞｯｸ・検診が3301件（38%）であった。②全依頼における陽性率は、HBs抗原が1.5%（129/8557名：陽性者重複除外）、HCV抗体が1.2%（96/8012名：同除外）であった。③配布・説明対象となった1606件中、技師実施は1423件（88.6%）で、陽性のため医師からの説明対象となった件数は49件（3.3%）であった。残りの件数（8.1%）は、短時間での退院（死亡含む）や配布・説明が困難な事例であった。④配布・説明を実施した入院患者の平均年齢は72.6歳で、何らかの理由により外来で肝炎検査を行った患者は同63.5歳であった。

【考察と課題】臨床検査技師による検査説明が推進される中、直接患者本人や家族に検査結果の配布・説明を行う取り組みは有意義と考える。しかし、医師からの陽性結果説明が専門外来受診に繋がったか未検証である事、また比較的年齢層が低い外来患者への結果報告体制を早急に確立することが課題である。連絡先：0187-63-2111（内線2234）